

日本火山学会・火山防災委員会
2013.05.20(抜粋)

資料3-3
科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会
安全・安心科学技術及び社会連携委員会
リスクコミュニケーションの推進方策に関する検討作業部会
(第3回) H25.6.4

**広域避難の実施にあたって専門家に望むこと
～東電福島第一原発事故の経験より～**

前・内閣広報室審議官 下村 健一
(元・TBSテレビ 報道キャスター)
(現・慶應義塾大学特別招聘教授)

3・11――その時、官邸の周辺は

- 東電本社で目の当たりにした、技術陣のメルトダウン
 - ・「線量を比較している2地点が同じ場所かわからない」
 - ・「放射性物質拡散予想図の縮尺がわからない」
- インターネット等で百家争鳴――《英知の結集》なし
[例] 何km圏内が避難すべきか ⇒ 深刻な政府不信に

《参考文献》

※いずれも下村健一・著

- 「首相官邸で働いて初めてわかったこと」(朝日新書)
- 「命を預ける人間のストレステストが必要だ」
(岩波「科学」2012年9月号)

専門家に望むこと①

少数の学者の見解より、幅広い英知の結集を

- “山頂”(単一の見解)と“山裾” 同時に示す工夫
《案1》Q & A…異説の存在を「質問」の形で表現
《案2》議事録…結論に至るまでの経過も公開
- 的確なフォロー情報を 時には丁寧な反論も
《例》「米国なら60km避難」等の異論百出に対応
- 少数説も大切に 神話の自家中毒に注意
《例》爆発を見た途端、原因推測ができた ⇒
想定能力はあった証左！考えなかっただけ！
- 不完全データも大切に 無造作に捨てるな
《例》SPEEDI…「この点は使える」のアピール無し

専門家に望むこと②

住民・行政は避難訓練、学者・専門家は助言訓練を

- **素人との接触を厭うな** 住民学習会、メディア取材等
《例》地元火山の噴火の特徴等（=予め伝えられる事）
⇒ その実践で、「一般に通じる言葉」磨きを
- **己の知識に邪魔されるな** 素直な感覚を大切に
《例1》「三原山は今日ものどか」⇔「不気味な沈黙と言え」
《例2》ヘリレポ「普賢岳山頂の溶岩が転げ落ちそう」
⇔専門家「この山の溶岩は急速には流れ下らない」
- **肩書きに邪魔されるな** エライ人ほど陥る難解表現
《例》下村 添削を歓迎する原子力専門家の先生方
…この学会もアンタッチャブル？ 誰が直すの？

専門家に望むこと③-1

非常時の決め手は、平時にあり！

【ア】発信の普段化 ⇒ 「身近さ」と「OJT」の一石二鳥を追求

《例》内閣広報室が取り組んだ、震災広報体制からの普段化

◇ **各省**の連携 — 「災害対策ページ」から、「**PRES**」チームへ

◇ **ラジオ**発信 — 「震災情報官邸発」から、「**政策**情報官邸発」へ

◇ **SNS**活用 — 「官邸災害ツイッター」から、「**官邸**ツイッター」へ

・災害用も、震災オンリーから**衛星落下・台風・PM2.5**…へ(75万人)

・**Facebook**(22万人)、**LINE**(180万人)への拡大

●非常時には、頼まなくても**国民皆が広報**担当に！

《例》「北朝鮮ミサイル発射」ツイッターの拡散ぶり & 評価

●専門家と地元(自治体・住民・メディア)が**有事に名刺交換**では×

専門家に望むこと③-2

非常時の決め手は、平時にあり！

【イ】美しいマニュアルよりも、役に立つマニュアル作成支援を

- 《例1》×「非常時には役所用語を避け、国民に伝わる判りやすい言葉を」
○ その場ですぐ使える“判りやすい言葉”自体を列記

[ex.] 気象庁「これまでに経験したことのないような大雨」（12/7/12発表←前月下旬準備）

- 《例2》×「関係部署との連絡を密に取り、常に最新かつ正確な情報共有を」
○ 実際に“連絡を密に”すべき相手自体を列記

[ex.] 「○○課△△係（担当：佐藤）090-1234-5678」←常に更新！（そのコンタクトが大切）

- 《例3》×「報道が先行し、ニーズが高い時は、沈黙せず速やかな発信を」
○ 空欄に単語だけ入れて／or新情報ゼロでも即使える文型を列記

[ex.] 官邸ツイッター「米国情報では、米国衛星UARSは本日**時**～**分頃、△△地方の上空を通過する見込み。その際に地上に落下する可能性も0ではないが、被害発生のは恐れは極小。」

[ex.] 立往生の満員電車内で、情報が全く無い時に、乗客の苛立ちを抑える車掌アナウンス
「只今、前の電車がつかえています。運転再開のメドがわかり次第お知らせします」

専門家に望むこと③-3

非常時の決め手は、平時にあり！

【ウ】過去に作成済みの知見の活用を！作ってオシマイでは×

《例1》「大規模災害発生時における情報提供のあり方に関する懇談会」報告書（2007/3・内閣府）

… **今まで下村も存在を知らず**

※昨年の防災委・勉強会講師の中川氏(時事通信)もメンバー

《例2》「火山災害から命を守るために～避難計画を知る大切さ」(2012/10/18・政府広報番組)

<http://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg7040.html>

… **国民の何人が見たか？**

⇒ **関わった専門家は、周知にも尽力を**